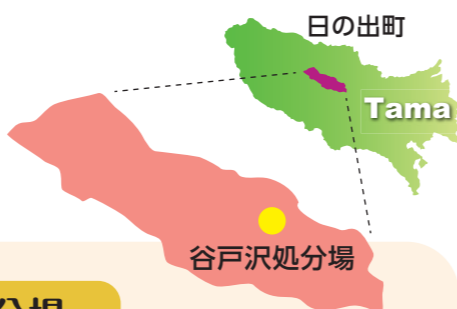


わたげ探偵!! こんなの調べてみました!
 ~ 谷戸沢処分場ってどんなところ? ~

多摩・島しょ地域には、隠れた魅力や知られざる不思議がたくさんあるんだ!
 今回は **東京たま広域資源循環組合が管理する谷戸沢処分場(日の出町)** を紹介するよ♪



艶やかな紅葉に包まれた谷戸沢処分場



ここは、かつて多摩地域25市1町の清掃工場から出された焼却灰や不燃ごみを埋め立てていた最終処分場なんだ。

今は、その役割を終え、元の里山に戻すための管理が続いているところだよ。その適切な管理のおかげで、処分場内では、国蝶のオオムラサキやカヤネズミ等が生息したり、トウキョウサンショウウオの産卵が見られるなど、約100種もの絶滅危惧種に指定されている生き物が確認されるまでになったんだ。

そんな貴重な生き物や里山風景を見られる見学会が、毎年、6月(国蝶オオムラサキ見学会)、8月(夏休み処分場見学会)、11月下旬~12月上旬(紅葉の谷戸沢処分場自然観察会)に開かれているんだって。詳しくは、処分場を管理している『東京たま広域資源循環組合』のホームページを見てね!

現在、谷戸沢処分場の役割は、お隣のニツ塚処分場(※)が引き継いでいるよ。そこでは焼却灰をエコセメントにしたり、環境データを測定したり、多摩地域25市1町の家庭から出るごみを、安全で安定的に処分できるようにしているんだ。

(※「ぐるり39」2022年10月号(No.109)の5ページで紹介しているよ)

谷戸沢処分場に生息している絶滅危惧種を紹介するよ!!



フクロウ

フクロウは生態系の頂点にあると言われているよ。処分場に大きな巣箱を設置したところ、2016年から今まで、フクロウのつがいによる6回の産卵(1回に2~3個の産卵)があり、産卵から2か月程でたくましくなった雛が巣立っていったんだよ。谷戸沢処分場で、豊かな里山の生態系が再生している証拠だね。



※組合のホームページでは、巣立ちまでのかわいい雛の姿が見られるよ。



オオムラサキ



国蝶であるオオムラサキの成体は木の蜜を求めて林の中に入るので、普段はなかなか見ることができないんだ。処分場では、幼虫が好むエノキを植えた大きなケージの中で保全し、たくさんの蝶を羽化させていて、6月には見学会を開いて、地域の皆さんに楽しんでもらっているよ。

トウキョウサンショウウオ

処分場がある地域には、昔からトウキョウサンショウウオがたくさんいたそうだよ。そのため、処分場造成前から、周辺樹林に保全池を設け、成体が産み付けた卵(2個1対の卵のう)を柵等により外敵から守り続けてきたんだ。その甲斐もあり、今では、毎年、保全池で多くの卵が発見できるんだよ。



モリアオガエル

処分場内に湿地ビオトープを設置して水生生物が生息しやすい環境を整えたことで、日の出町の天然記念物モリアオガエルも繁殖しているよ。鳴き声を出すのはオスだけで、5~7月の繁殖期には、夜に「コココッ」という低い鳴き声をだしてメスを誘い出すんだって。



カヤネズミ

処分場周辺地域の昔の風景である里山的自然環境の再生を進めるため、ススキ野原の草原エリアを設けたことで、カヤネズミが見られるようになったよ。体長5~7センチ、体重7グラム程度の日本で一番小さなネズミで、ススキの葉を丸めて巣を作るそうだよ。

